

Daigasグループ 生物多様性の 取り組み

— 自然の恵みを
未来に伝えるために —



地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

Daigas
Group

〒541-0046 大阪市中央区平野町四丁目1番2号
大阪ガス株式会社 CSR・環境部
tel: 06-6205-4833
<http://www.osakagas.co.jp/>

第4版 2018年3月

Daigasグループと生物多様性

はじめに

私たちDaigasグループは、事業活動を通じて国内外の生物多様性とかかわっていること、また、製品やサービスを通じて持つ多様な接点においてお客さまに対する生物多様性についての啓発活動に寄与しようということを認識し、生物多様性がもたらすさまざまな恵みを人類にとって必要不可欠なものと考え、2010年4月に「大阪ガスグループ生物多様性方針」（「Daigasグループ生物多様性方針」に2018年3月改定）を制定しました。

同年10月には生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催され、また前年には（社）日本経済団体連合会から経団連生物多様性宣言行動指針、さらに政府から生物多様性民間参画ガイドラインが提示されました。

その後、生物多様性に配慮した事業活動への世の中の期待はさらに高まっており、近年では「SDGs（持続可能な開発目標）」「自然資本経営」「ESG」（本冊子P.13に掲載）への取り組みも広まりつつあります。

Daigasグループでは、生物多様性方針を掲げる以前からガス製造所で生物多様性に配慮した緑地形成に取り組んできましたが、その取り組みはDaigasグループの事業特性を活かし、都市部で水平展開する等グループ全体で広がってまいりました。

本冊子では、Daigasグループでの生物多様性取り組みを、今後も発展させるための礎として総括しました。今後も、Daigasグループにおいて、生きものの多様性を守り、経営資源として生物多様性保全を推進する取り組みを継続したいと思えます。

目次

Daigasグループと生物多様性	p.2
Daigasグループ事業拠点での取り組み	p.4
泉北製造所の取り組み	p.6
姫路製造所の取り組み	p.8
寄稿：企業が生物多様性の課題に取り組むことの意義	p.10
都心の緑地にできること～事業所等の緑地での取り組み～	p.12
都心の緑地にできること～屋上田んぼの取り組み～	p.14
都会で感じる、森の恵み	p.16
事業拠点でみられる生きものたち	p.18
Daigasグループの生物多様性関連活動年表	p.20

生物多様性とは

私たち人間は、地球という大きな生態系の一員であり、私たちの暮らしは、多様な生きものがかわりあう生態系から得られる恵みによって支えられています。私たちのいのちと暮らしを支えている生物多様性を守り、持続的に利用していくことは、私たちだけでなく、将来の世代のためにも必要です。

[生物多様性の三つの要素]

生物多様性は、生きものの“多様さ”“違いがあること”を表しています。しかし、単に「生きものの種類がたくさんある」ことを重視しているのではなく、さまざまなレベルでの多様性の確保が求められています。

- ・種の多様性…動物、植物から微生物まで多くの種が存在すること
- ・遺伝的多様性…同じ種でも遺伝的に異なった特性・違いがあること
- ・生態系多様性…生物と生物、生物と自然が深くかわりあっていること

Daigasグループと生物多様性

Daigasグループ生物多様性方針

2010年4月、大阪ガス株式会社は、生物多様性の保全と持続可能な利用に努め、自然共生社会に貢献するため、「大阪ガスグループ生物多様性方針」（「Daigasグループ生物多様性方針」に2018年3月改定）を定めました。



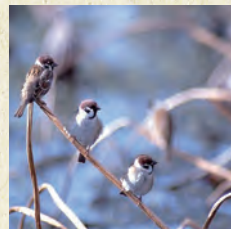
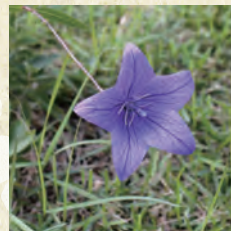
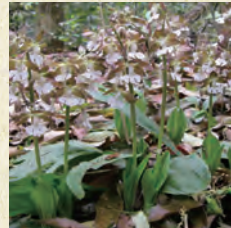
Daigasグループ生物多様性方針

ステートメント

私たちDaigasグループは、さまざまな主体と連携して、生物多様性の保全と持続可能な利用に積極的に取り組み、生物多様性に配慮した製品やサービスを提供することを通じてお客さまの意識を啓発する等、自然共生社会、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきます。

そのために下記の2点に継続的に取り組んでいきます。

- ①事業活動と生物多様性のかかわり（恵みと影響）を把握するよう努めます。
- ②生物多様性に配慮した事業活動等を行うこと等により、生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、持続可能な利用に努めます。



活動の視点と具体的な取り組み

1.継続的な取り組み

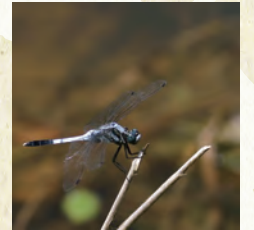
生物多様性の取り組みに関する社員一人ひとりの意識の向上を図り、中長期的な観点で継続的に取り組みます。

2.地域重視と広域的・グローバルな認識

地域に根ざした企業グループとして、地域の自然とのネットワーク形成を意識し生物多様性への対応に取り組みます。また、主な原料を海外に依存していることを鑑みて、グローバルな観点からも生物多様性の保全に貢献します。

3.多様なステークホルダーとの連携と配慮

生物多様性への取り組みにあたっては、研究者・行政・NPO等、多様なステークホルダーとの対話を通じてその意見に配慮し、連携を図ります。



4.社会貢献

地域の一員として、行政・住民の方と協働し、郷土の自然の保全と復元、および、これらの取り組みに対する一般市民の意識啓発に取り組みます。また、よき企業市民として、生物多様性に寄与できる国際的なプログラムに賛同し、協力していきます。



5.地球温暖化対策等その他の環境対策等との関連

Daigasグループにおける温暖化防止対策等に加えて、事業所における緑化の推進では在来種の優先的導入等、生物多様性に配慮します。



6.サプライチェーンの考慮

生物多様性を考慮した購買に努めます。

7.生物多様性に及ぼす影響の回避と低減

当社グループの実施する、環境負荷が大きく生態系に影響を与えるおそれのある大規模プロジェクトの計画時には、必要に応じて影響把握を行い、生物多様性への影響の回避あるいは低減に努めます。



以上、7つの視点に基づく取り組みに加えて、近畿地区に本拠を置く企業として、古典文学に頻出するような在来植物の保護・育種活動を推進し、地域本来の自然の復元に貢献していきます。また、都市開発・都市再生等において、これまでにDaigasグループに蓄積された知見を活用することにより、生物多様性の保全と一般市民の意識啓発に寄与していきます。



Daigasグループ事業拠点での取り組み

Daigasグループでは、各事業拠点において地域とつながる緑のネットワークの拠点として、地域の生物多様性に配慮した取り組みを展開しています。

本社（ガスビル）



メジロ
※日本野鳥の会大阪支部撮影

KRP9号館（京都リサーチパーク）



フジバカマ★◆

建築物の外構植栽において、地域の生物多様性に配慮した植栽を推進しています。

- ①アーバネックス神戸六甲
- ②ジ・アーバネックス京都松ヶ崎
- ③ジ・アーバネックス神戸大倉山
- ④ジ・アーバネックス六甲道
- ⑤ジ・アーバネックス芦屋Owners
- ⑥ジ・アーバネックス神戸山本通
- ⑦ジ・アーバネックス高槻
- ⑧ジ・アーバネックス京都四条烏丸テラス



姫路製造所



ジャコウアゲハ

食と住まいの情報発信拠点
“hu+gMUSEUM (ハグミュージウム)”



屋上水田での活動

泉北製造所



シリバカガシ◆

実験集合住宅「NEXT21」

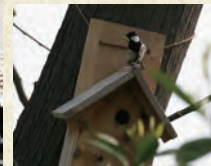


Daigasグループ
建築物外構植栽・生物多様性配慮型植栽レファレンス



緑地が十分に確保できなくても生物多様性に取り組めるメニューを紹介し、Daigasグループ全体で地域の自然環境の保全に貢献し、さらに地域社会への社会貢献につながる取り組みへの“参考書”として作成しました。

シジューカラ
※日本野鳥の会大阪支部撮影



- ★ 環境省版レッドリスト掲載種
- ◆ 都道府県版レッドデータブック掲載種

泉北製造所の取り組み

テーマ | 地域とつながるみどりのネットワーク

緑地管理コンセプト

1971年に操業開始した大阪ガス泉北製造所は、地域の植生に配慮した「エコロジー緑化」を導入し、緑のボリュームの確保に取り組んできました。2002年からは、地域性種苗等を用いた郷土の森の再現や芝生のチガヤ草原への置き換え等、多様な生きものの生息・生育環境としての緑地づくりを進めています。



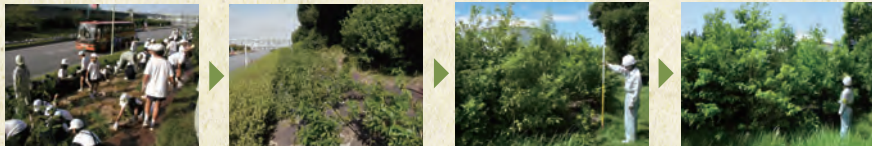
地域性種苗による森づくり

地元の山林で採取したドングリから育種した苗木（地域性種苗）を地元の小学生と一緒に植樹する等、郷土の森の再現に取り組んでいます。



2011年8月

▶ 地域性種苗の成長の様子



2005年10月

2006年10月

2008年7月

2010年6月

担当者のコメント

泉北製造所 総務チーム 亀井政昭



環境に関係する業務に携わっていたことがきっかけとなり、2002年の泉州産ドングリ（郷土種）の採取を皮切りに製造所の緑地改善に取り組んできました。約15年を経て、製造所が「地域とつながるみどりのネットワークの拠点となる」大きな成果につながることは、開始当初は正直考えもしませんでした。製造所の緑地づくりに力を入れてこられた当時の所長の想いを受け継ぐとともに、活動にご協力頂いた社内外の多くの方々へ御礼を申し上げ、これからも継続的に取り組んでいきたいと思っております。

チガヤ草原づくり

生きもの豊かな草原をつくるため、製造所内の草原にチガヤを植え込んでいます。遺伝子レベルの多様性に配慮し、製造所周辺の道路脇に生えているチガヤを用いています。



チガヤの植え込み



チガヤ植え込み後



チガヤ草地

母樹林づくり

泉北製造所近くの里山から採集した低木・草本類の苗を構内の林地に植え込み、里山らしい多層構造の再現を試みています。



苗木の採集



苗木の植え込み



母樹林

外部
ステークホルダーの
コメント



森本幸裕さま
京都大学名誉教授

チガヤ草原にする意味

- ① ススキ草原より草丈が低いので、防災的（視認性）な面に優れています。
- ② チガヤ草原には、ヨモギ・ノアザミ・カワラナデシコ等、多様な植物が生育します。
⇒ 多様な植物の生育は、多様な昆虫類の生息につながる等、景観的な面、生物多様性の確保の面から優れています。
- ③ シバ草原より草刈りの回数が少なく、済むので経済的です。

大阪府から開発等で姿を消した植物は80種以上。その生育地は水田を含む湿地が一番多く、ついで草地に海岸。シカ食害で瀕死の森林植物も増加中。泉北製造所や姫路LNG基地は緑地にそうした立地を再現して希少種里親となる素晴らしい取り組みです。今後は雨みずの健全な循環で地域にも貢献する雨庭・生態緑溝への展開はいかがでしょうか。

姫路製造所の取り組み

テーマ | 地域の豊かな生命を育むみどりの拠点づくり

緑地管理コンセプト

姫路製造所では、西播磨本来の生物多様性の高い生態系機能を備えた緑地の創出と維持を進めています。また、事業所独自の戦略を立て、生物多様性の保全と再生への具体的な取り組みを推進しています。



「ビオトープ」の創出

姫路製造所の草地では、施設管理にあわせ草丈を低く保つエリアと、生きものを育むエリアを区分し、緑地管理を行っています。



後者では、多様な生きものを育むことができるチガヤ中心の草地形成を進めています。



フレモコウ



キキョウ



フジバカマ



スマトラノオ

担当者のコメント

姫路製造所 総務チーム 藤岡康高

製造所内には広大な緑地の「風景」が広がっていますが、その維持管理にあたってはコストメリット評価はもちろん、地域在来種の生育環境の場として、社会貢献の機会創出の可能性も意識しています。約15年以上を経過し、現在でも試行錯誤を重ねている部分もありますが、様々なステークホルダーとの連携を通じながら、課題を解決しています。庭園のような見た目の美しさではありませんが、企業活動を通じた地域環境保全の「風景」をぜひご覧ください。

希少種のレフュージア（避難場所）へ

姫路製造所では、郷土産の樹種で植栽を進めてきた結果、多くの生きものが生息しています。

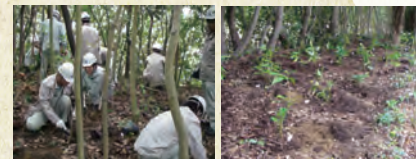
2002年からエビネ（環境省レッドリストに掲載）をはじめとした、希少種等36種を緑地に導入しました。

その後のフォロー調査（2009年）では80%の定着が確認され、当該緑地が希少な植物種のレフュージアとして、遺伝資源の保全に貢献できることがわかりました。

2010年度からは開発工事等で生息地が失われつつある希少植物の採取と構内への移植を進めています。



2012年5月



社員によりセンリョウ等を植栽

「外周林ゾーン」の創出

剪定から間伐に管理手法を変え、多様な植物が生育できる自然な森の姿を目指しています。



セットバック前

セットバック後

姫路製造所に生育する希少種

兵庫県立人と自然の博物館 協力



チトセカズラ



エビネ



オチフジ

チトセカズラ
環境省版レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類
兵庫県版レッドリスト2010：Cランク

エビネ
環境省版レッドリスト：準絶滅危惧
兵庫県版レッドリスト2010：Cランク

オチフジ
環境省版レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類
兵庫県版レッドリスト2010：Aランク

外部
ステークホルダーの
コメント



服部保さま

兵庫県立南但馬自然学校
校長
(兵庫県立大学 名誉教授)

姫路製造所という工場内で西播磨産地域性苗木の植栽による照葉樹林やチガヤ草原の創出は先進的な取り組みであり、たいへん望ましい事業です。

特に揖保川産フジバカマ、キキョウや千種川流域産のチトセカズラ、エビネ、オチフジ等の増殖・植栽は絶滅危惧種の保全にも大きく貢献しています。

子ども達の体験学習の場としてもぜひ利用させてください。

企業が生物多様性の課題に取り組むことの意義

寄稿 | 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 橋本佳延さま

高度に分業化された現代社会では、私たち市民は身の周りの環境と直接的にかかわっているだけでなく、消費者として様々な企業から提供される商品やサービスを購入、利用することを通じて間接的に世界各地の環境とかかわっています。また、勤労者として多くの時間を労働に費やし、企業活動を通じて直接・間接的に環境に影響を及ぼしています。

多くの企業が生物多様性の課題に取り組むようになれば、私たちがそれらにかかわることのできる経路が増え、消費者や勤労者としてよりよい取り組みを実践する企業の商品やサービス、業務を主体的に選べるようになります。このような経路を増やしていくことが、私たち（子々孫々も含め）の安全で豊かな生活の基盤を支えるためには必要です。

Daigasグループは、製造所や社屋・住居物件等の緑地における生物多様性保全機能を高める取り組みだけでなく、生物多様性にかかわる各種方針・社内手引きを整えて全社で生物多様性に配慮した取り組みが実践できるよう努力を続けておられます。ぜひ、これからも私たち市民のよきパートナーとして、生物多様性の課題に積極的に取り組まれることを期待しています。



兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 橋本佳延さま

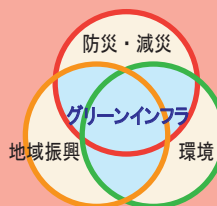
“グリーンインフラ” みどりが果たす貢献

「グリーンインフラ」とは、自然環境がもつ防災や水質浄化等の機能を土地利用に活用することで、自然環境・経済・社会に有益な対策を社会資本整備として進める考え方です。屋上緑化、レインガーデン、透水性舗装等、都市でも取り組めることが提案されています。

国内では、グリーンインフラを推進するとして「国土形成計画」が、2015年に閣議決定しました。つまり、グリーンインフラは、わが国の社会資本整備の方針として位置づけられているのです。



グリーンインフラとしても機能する屋上水田 (ハグミュージアム)



生物多様性に配慮した植栽《導入する植物・回避する植物》

Daigasグループの各拠点の緑地の規模はさまざまです。それぞれの緑地において、緑地の規模や用途に合わせた取り組みを実践し、Daigasグループ全体での生物多様性の取り組みを展開します。近隣地域の生物多様性の質を保つため、生物多様性に配慮した植栽計画を立てることとしています。

- * 新たに導入する植物は、可能な範囲で「地域性種苗」を取り込むよう検討します。
- * 特に、まとまった面積での緑地ができる場合や、自然性の高い立地においては、地域性種苗の導入に努めます。
- * 地域に自生する植物の場合、園芸品種が混同されている場合があるので、「自生種」として用いる場合は園芸品種でないことに留意します。
- * 可能な限り、外来植物は導入しないように留意します。
- * 特に、外来生物法による規制・指定されている植物は緑化・植栽等に用いません。
- * Daigasグループの緑地等に蔓延する外来植物は、除去手法の実施に取り組めます。

= 外来植物の影響 =

- ・ もともとそこに生えていた植物の生育場所をうばいます。
- ・ もともとあった植物と交雑し、遺伝的に入り混じり、地域特有の遺伝子が失われます。

特定外来生物



ナルトサワギク



オオキンケイギク

地域性種苗とは

- ・ 近隣の地域で採取した種子などにより育てた種苗
- ・ 生産過程が明らかであることもポイント

泉北製造所での地域性種苗づくり



社員が製造所近くの里山などでドングリを採取



製造所内でドングリを育種



地域性種苗

都心の緑地にできること

vol. 1 | 事業所等の緑地での取り組み

自然を大切にする人のココロも育み、地域とのつながりを感じていけるよう、古典文学と在来種との密接な関係に着目し、古典とのゆかりの深い関西の企業として、都市部に立地する各拠点でも在来種の保全や生物多様性の意識啓発活動に貢献していきます。



本社社屋の屋上庭園

1966年に設置された屋上庭園は社員の憩いの場として、長く親しまれてきただけでなく、専門家による調査から、鳥類・昆虫類等の生きものに利用されていることがわかりました。



KRP9号館

京都リサーチパーク（京都市下京区）では「KRP9号館」において、「源氏物語」を外構植栽のコンセプトとして京都産の植物を中心に導入しています。



NEXT21

1993年竣工の実験集合住宅「NEXT21」では、共用庭、立体街路、住戸の専用庭、屋上庭園と建物全体に植栽を立体的に配しており、野鳥が羽を休める街中のオアシスになっています。



アーバネックス神戸六甲

兵庫県下のマンションでは初の試みとして、生物多様性に配慮した植栽を行っています。「兵庫県立人と自然の博物館」より絶滅危惧種を含む地域産の植物を譲り受けるなど、生活の最も基本的な場である住宅において、六甲の自然を身近に感じられるものとなりました。

こうした地域性種苗導入の取り組みが評価され、2016年度グッドデザイン賞を受賞しました。



SDGs と Daigasグループの生物多様性の取り組み

「SDGs」とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、エス・ディー・ジーズと読みます。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。人間、地球および繁栄のための行動計画として、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

当社の生物多様性の取り組みは、SDGsが掲げる目標とも連動しています。



自然資本経営とは

「自然資本」とは、自然環境を国民の生活や企業の経営基盤を支える重要な資本の一つとして捉える考え方です。自然資本は、森林、土壌、水、大気、生物資源等、自然によって形成される資本（ストック）のことで、自然資本から生み出されるフローを生態系サービスとして捉えることができます。

自然資本の価値を適切に評価し、管理していくことが、国民の生活を安定させ、企業経営の持続可能性を高めることにつながると考えられています。

ESGと生物多様性

「ESG」とは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を合わせた言葉です。企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方は、機関投資家の間で急速に広がっており、投資の意思決定において財務情報だけでなくESGも考慮に入れる手法が「ESG投資」です。

生物多様性は、「環境」の重要な柱であり、企業の生物多様性への取り組みへの期待が、年々高まっている状況です。

都心の緑地にできること

vol. 2 | 屋上田んぼの取り組み

ハグミュージアムの屋上田んぼ

ハグミュージアムの屋上には、約100㎡の田んぼが広がり、地元の小学生が、田植えや生きもの観察、稲刈り等の体験学習を行っています。



都心の田んぼで育まれるもの

屋上田んぼでは、春の水張りを終えると直ぐに、イトトンボ等のトンボの仲間や、ミジンコやホウネンエビ等、小さな生きものがにぎわいます。水辺（田んぼ）を創出することにより、生きものが生まれ、生きものと子どもたちがふれあい、子どもたちの元気な声と笑顔が生まれます。



羽化したシオカラトンボ ホウネンエビ



田植え



田んぼの生きもの観察



稲刈り

田んぼのある風景

田んぼは、食料を得るための場所であるだけではありません。

水をたたえた春の田んぼ、稲がぐんぐん育つ夏の田んぼ、黄金色の稲穂が実る秋の田んぼ、四季折々の田んぼの風景は、私たち日本人が、ずっと残したい大切な風景です。



お米を食べよう！

毎日食べているお米は、田んぼでつくられています。田んぼは、お米をつくる大切な場所であり、また、生きものにとっても大切な場所です。



生きものを育む田んぼ

田んぼには、ドジョウ、タニシ、ミミズ、カエル、メダカ、水生昆虫等、多様な生きものがすんでいます。田んぼでは、稲だけでなく、季節ごとに多様な草花が育ち、小さな花を咲かせています。



つながるいのち

田んぼにいる生きものを食べに、他の生きものがやってきます。ヘビがカエルを、鳥がヘビを食べます。田んぼとその周辺で、多様な生きものがかわりあって生きています。

生きものを育む

化学肥料や農薬を使わない田んぼには、多様な生きものがすんでいます。その田んぼのお米を食べることは、生きものを育むことにつながります。



生きもの1匹を育むには・・・

- ・マルタニシ … 2杯
- ・アキアカネ … 3杯
- ・イトトンボ … 9杯
- ・ドジョウ … 46杯
- ・メダカ … 83杯
- ・アマガエル … 67杯
- ・トノサマガエル … 113杯
- ・ツバメ … 45,000杯

資料 NPO法人 農と自然の研究所、(社)農村環境整備センター

都会で感じる、森の恵み

テーマ | ジビエを楽しむ

森の恵みをおいしくいただくことで、里山の生物多様性のバランスを保つことに貢献することができます。

ジビエとは

フランス語で狩猟鳥獣の肉をさし、欧米では高級食材として人気があります。日本でも、ポタン（イノシシ）・モミジ（シカ）と呼んで古くから親しまれてきました。

ジビエ料理を楽しむ

最近ではジビエ料理を出すレストランも増えてきました。

適切に衛生的に処理されたシカやイノシシのお肉を買って料理してみましょう。

- *イノシシ肉
…ポタン鍋のほか、猪カツや焼き肉等。
- *シカ肉
…ワイン、チーズなどと相性が良いお肉です。
塩麴に半日つけて焼いても。



鹿肉料理教室



鹿肉菜膳カレー



青椒鹿肉絲

林真理先生（愛deer料理教室主宰）著
「鹿肉を楽しむ」より

“さとやま”とは

里山とは、人里に近い山をさし、雑木林や田畑、草地、ため池等があり、さまざまな生きものすみかとなります。

かつては、人々は伐採や下草刈り等の手入れをすることで、豊かな里山を育み、キノコ等の山の恵みを得てきました。

一見自然豊かに感じる里山ですが、人の手が入らなくなると木が生い茂り、地面まで日光の届かない暗い森では、育つ生きものの種類は限られ、マツ枯れなどの病気が蔓延し、キノコ等が姿を消しています。

里山の恵み

- 木 → 木材、薪、炭
- 落ち葉、下草 → 肥料
- 山菜、キノコ



ジビエと生物多様性

増え続けるシカ・イノシシ

かつてに比べ、里山が荒れたり耕作放棄地が増え、さらに捕獲されなくなり、山ではシカやイノシシが増え続けています。

里山の生態系がピンチ！

増え続けたシカやイノシシは、里山のエサを食べつくしています。下草がなくなるとエサ不足に困るだけでなく、鳥や昆虫のすみかも失われ里山の生態系が崩れていきます。バランスのとれた生態系を取り戻すには、シカやイノシシを減らす必要があります。

私たちの日常生活にも影響しています！

エサを求めて、田畑に野生動物が現れるようになりました。全国の農作物被害は、シカとイノシシだけで110億円を超えています。

都市部でも、人の食べものの味を知ったイノシシが、ゴミを漁って散らかしたり、人を襲ったりして問題となっています。

シカにぶつかられて自家用車がへこんだというケースも増えています（多くの場合、シカは何事もなかったかのように立ち去っていくそうです）。

シカ被害



樹皮の皮剥ぎ

イノシシ被害



イノシシに食べられた稲穂



緑のゴミでクラフト体験

製造所内の緑地では、安全で生物多様性の高い緑地づくりのため、混み合った樹林の間伐や外来種の選択的な伐採を進めています。

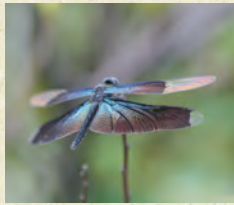
間伐により発生した“緑のゴミ（間伐材）”の一部は、製造所内外のイベント等でクラフト体験（木工工作）の材料として利用しています。



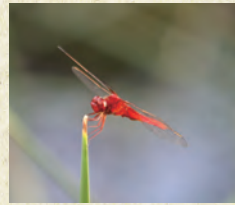
事業拠点でみられる生きものたち



シオカラトンボ
泉北製造所、姫路製造所、ハグミュージアム



チョウトンボ
姫路製造所



ショウジョウトンボ
泉北製造所、姫路製造所



アオモンイトトンボ
泉北製造所、姫路製造所、ハグミュージアム



キイトンボ
姫路製造所



ギンヤンマ (ヤゴ)
泉北製造所、姫路製造所、ハグミュージアム



タイコウチ
姫路製造所



コオイムシ
泉北製造所、姫路製造所



アオヒメハナムグリ
姫路製造所



ホシベニカミキリ
姫路製造所



アオスジアゲハ
泉北製造所、姫路製造所



ツマグロヒョウモン
泉北製造所



ツバメシジミ
泉北製造所、姫路製造所



ベニシジミ
泉北製造所、姫路製造所



ムラサキシジミ
泉北製造所、姫路製造所



アラカシ
泉北製造所、姫路製造所



コナラ
泉北製造所、姫路製造所



ヘクソカズラ
泉北製造所、姫路製造所



ヒメガマ
泉北製造所、姫路製造所



スマトラノオ
泉北製造所、姫路製造所



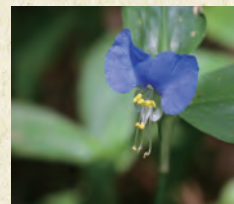
ハンゲショウ
泉北製造所



トベラ
泉北製造所、姫路製造所



ミヤコグサ
泉北製造所



ツユクサ
泉北製造所、姫路製造所



キキョウ
姫路製造所

古典文学にみられる在来種

古典や和歌の中に登場する、古くから日本人に親しまれている植物たちも生育しています。



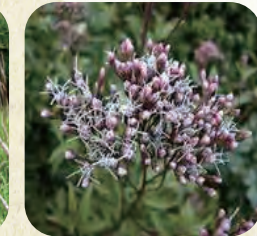
ネジバナ
泉北製造所、姫路製造所、ハグミュージアム

陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに
乱れぞめにし我ならなくに
(百人一首 源融)
※モチヅリ:ネジバナの別名



チガヤ
泉北製造所、姫路製造所、本社屋上

茅花抜く
浅茅が原のつばすみれ
いま盛りなりわが恋ふらくは
(万葉集 大伴田村家大娘)



フジバカマ
姫路製造所、KRP9号館

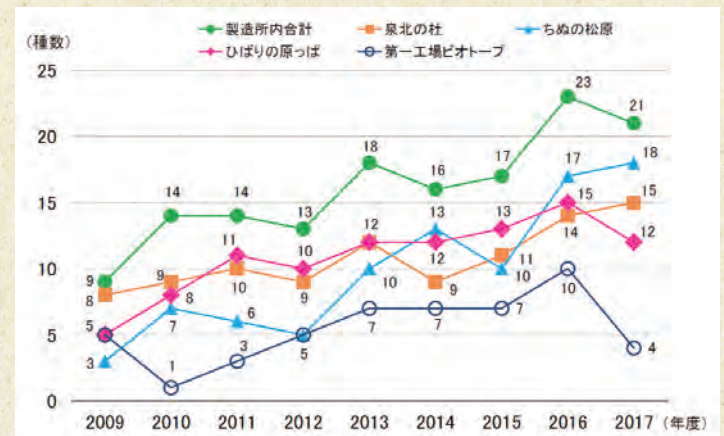
藤袴きて脱ぎかけし主や誰
問へどこたへず野辺の秋風
(金槐和歌集 源実朝)

緑地のモニタリング

大阪ガスの製造所は広大な緑地を有しており、地域性種苗の導入や多様な生態系を創出する等、生物多様性の取り組みを推進しています。取り組みの成果の検証に、鳥類・チョウ類を中心に生きた生きもののモニタリングを継続しています。

その結果、生物多様性が順調に高まっていることが明らかになりました。一方、外来種の侵入を確認した場合は、すぐに除去する等、外来種の駆除に努めています。

泉北製造所モニタリング結果の例 (チョウ類の確認種数)



Daigasグループの生物多様性関連活動年表

年	内 容
1966	本社北館竣工、屋上庭園設置
1971	「エコロジー緑化」を導入した泉北製造所の操業開始
1983	WWFジャパン入会
1984	「エコロジー緑化」を導入した姫路製造所の操業開始
1992	「大阪ガス環境基本理念」制定
1993	野鳥に配慮した都心の立体緑地を持つ実験集合住宅「NEXT21」竣工 「NEXT21」第1フェーズ（1994～1998年度）にて生態調査実施（協力：日本野鳥の会）
2001	姫路製造所内にビオトープ整備
2002	姫路製造所緑地で「兵庫県立 人と自然の博物館」の希少植物保護実験開始
2005	泉北第二工場、地元産ドングリより育てた苗木（郷土種）の植樹開始
2006	「大阪ガスグループCSR憲章」制定
2008	泉北製造所「地域とつながるみどりのネットワーク」構想策定、生態調査実施
2009	「大阪ガス環境方針」制定 本社屋上庭園（協力：日本野鳥の会）、姫路製造所にて生態調査開始
2010	「大阪ガスグループ生物多様性方針」制定 京都リサーチパーク「KRP9号館」にて生物多様性に配慮した植栽実施 「姫路製造所における緑地生物多様性を考慮した緑地管理計画書」改訂 「大阪ガス姫路製造所生物多様性戦略」策定
2013	「泉北製造所の緑地管理計画書」策定
2015	ハグミュージアム屋上での水田稲作開始 「大阪ガスグループ建築物外構植栽・生物多様性配慮型植栽レファレンス」作成
2016	「大阪ガスグループ建築物外構植栽・生物多様性配慮型植栽レファレンスII」作成

[Daigasグループの生物多様性に関する受賞歴]

◇姫路製造所

2013年 「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰（いきもの環境づくり・みどり部門）

◇hu+gMUSEUM（ハグミュージアム）

2015年 平成27年度おおさか環境にやさしい建築賞

◇大阪ガス都市開発株式会社

2016年 グッドデザイン賞



Daigasグループでは、生物多様性の取り組みをはじめ、CSR（社会的責任）への取り組みを報告するための媒体として、CSRレポート、および、WEBサイトを制作しています。

毎年1回（8月末頃）、前年度の取り組み報告のために内容を更新しています。

◎WEBサイト

<http://www.osakagas.co.jp/company/csr/>



◎冊子



(WEB・冊子画像：2017年度制作物)